

これでいいの？ 教育費の父母負担

今は、貧困を抱えている家庭が孤立しているのではないか

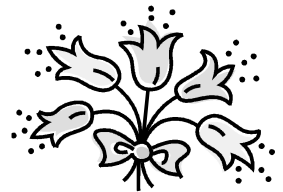


- 2月7日に行なわれた「ゆきとどいた豊かな教育を求める松戸市民集会」で、子どもの貧困についていろいろ報告がありました。中でも高校PTAがお金を出して教室にクーラーを設置するという話が出ました。進学率を上げるために夏期講習をする、そのためにはクーラーが必要だろうと。親の経済力が高い進学校には教室にクーラーが設置されていることになる。
- うちの高校でも、今度統合して新しい学校になる時にPTAがお金を出してクーラーを設置しようという話を持っていこうということになった。それはやはり受験対策として。偏差値はそんなに高くないけれど、生徒会も活発だし、とてもいい学校だと思う。先生たちは統合を機に受験校にしたいという案を持ってきたが、親たちからは受験校にしないでいい、このままでいいという意見が出された。先生たちの中に統合準備室というのがあって、そこで「出口を広く、高くしたい」という言い方で言ってきた。親や生徒たちは、そういうことを望んでいない。受け皿になって、自分のやりたいことがいろいろ体験できる学校というのを望んでいる。
- 市民集会の中で考えさせられたのは、昔も社会的に貧しい時代はあったが、その時代と今と何が違うのかということ。今は、貧困を抱えている家庭が孤立しているのではないか。親が仕事から帰ってくるまで、子どもは学童保育に入っていないので一人で留守番をしていなければならない。どうしても友だちのうちに入りびたりになるのだが、親がそれを気にして、「友だちの家には行かないように」と言ってしまう。受け入れる友だちの家では「いいのよ」と言っているのに。経済的困難を抱えている家庭が「自己責任」ということを感じている。支えあおうという流れはないわけではないけれど、そこが機能していないから、とても孤立している。それが今の問題なのだと感じた。
- それと、PTAの委員のなり手が増えないのも当然かなと思った。それぞれの生活に汲々としていて、時間的にも精神的にもPTAをやる余裕がないのではないか。その余裕のある人だけがやっている。委員のなり手がいつも同じ顔ぶれというのはそういうことなのかと思った。それをどのように解決していくのか、それがこれからのPTAの課題。経済的困難を抱えている家庭が孤立しているというような問題があるからこそ、PTAが必要なのだが。

PTAに関わらないで「お互いさま」の気持ちをいつ培うのだろう？

- 困っている人ほど助けを求めないのだなあと思いました。保育園などでもみんな大変になってきている。お金の余裕がないということは、子どもが小さいとますます時間も気持ちも余裕がなくなってくる。前は、「ちょっと子どもを預かっておいて」と言えたが、今はそれが言い合えない。みんな遠慮している感じ。
- 若い親ほど「迷惑をかけてはいけない」という気持ちが強いですね。
- 「お互いさま」というのがあまりないですね。
- 同じお母さん同士でとても気を使っている。
- PTAというのは「お互いさま」というところがあるけれど、PTAに関わらないで「お互いさま」の気持ちをいつ培うのだろう？ 自分だけの問題だと思ってしまおう。例えば経済的に困難ということも自分の問題だと。もちろんそうではあるけれど、だからこそ教育費を安くしましようという話にならない。

- 高校PTAの総会で、エアコンの設置とその電気代で1ヶ月700円プラスになるという。6月～9月の稼働だけでその金額になる。私が高校PTAに入った時は、600円のPTA会費で、200万も予算が余っていた。それで会費を値下げしてほしいと言ったんですが、「今度周年行事があるから値下げはできない」と言われました。今度はそれに+700円ということで、月額1300円になる。今度入学する1年生の保護者に、5月の総会で同意を得て決定するということになりました。
- エアコンを設置した後も、ずっと700円プラスになるんですね。ある程度時間がたったら設置した時の費用はペイするのでは？ 電気代だけになるのでは？ それでもずっと+700円？
- どここの高校を聞いても700円プラスしている。しかも稼働は4ヶ月だけなのに。
- 夏は暑いから夏休みがあるのでは？ クーラーがあったら、夏休みもずっと補習授業をやりましようということになりませんか？
- 「お金がかかるから嫌だ」と私が言ったら、「補習授業を充実させて、教育サービスをします」と学校側が言ったんですよ。
- 補習授業をしても、どれだけ子どもたちがそれを希望して受講するのだろうか。皆のニーズと全然違うような気がする。



卒業対策費や進路対策費などいろいろありますよね

- 教育費の父母負担ということで、学校で徴収している教材費などを中心にここのところ見てきたけれど、それ以外にも卒業対策費や進路対策費などいろいろありますよね。高校でもそのような父母負担はありますか。小中学校ではPTAとは別に保護者が卒業対策委員会を作って、卒業対策費を徴収しますが。
- 卒業アルバムは今10,000円位しますか？ 高いですよ。
- 中学で問題だと思ったのは、進路対策費。以前は中学の先生が手土産持って高校訪問していた。その手土産代と交通費を進路対策費から出していた。中学校で行なう高校説明会の時の費用も進路対策費から出していた。おかしいと問題点を指摘しても、長年の慣行としてやっているとそれを覆すのはとても難しい。こういうことを今もやっているのだろうか。
- 高校では、卒業式の来賓のお弁当代をPTAが出していた。高校PTAの予算書や決算書の書式は全くわからない。高校は全部この書式だから変えられないと。去年の決算ではなく予算に照らして今年の予算を立てている。つまり何も変わらないということ。
- 高校PTA会計の通帳や印鑑は事務長が持っている。PTAは名前だけ。
- 中学校の保護者会のお金はバザーの収益金だけ。その通帳は会計担当の保護者が持っているのだけれど、何かに使う時には教頭先生から会計に直接言っていたらしい。会長を通さず。おかしい。結構お金持っていて、先日はやはり周年行事に使わせてくれと言われた。
- 教育費のことを父母が全然考えていないというか、言われたら払うという感じになっている。

知らなかったら

「学校に言われたお金払わないでどうする」と思っていたかもしれない

- 教育費の父母負担についても、PTAのことについても、「これっておかしいんじゃない？」と思うような何かきっかけがないと、「そういうものなんだ」と何も疑問を感じない。私は小学校・中学校のPTAで学ばせてもらって、育ててもらったから、PTAの活動やお金の使い方を考えられるようになったけど、知らなかったら「学校に言われたお金払わないでどうする」と思っていたかもしれない。「払えなかったら私の責任だ」と思ってしまうかもしれない。だからこそ若い人たちにこういう場に来てほしいと思うのだけれど。
- 私も松P研の例会に参加するようになって、お金の問題をずいぶん教えてもらった。そうでなければなかなか気づかなかったと思う。だって、教材費は小学校入学時から口座引き落としになっていたもの。新年度の学校徴収金のお知らせや年度末の会計報告も、きちんと見ていなかったかもしれない。

- 社会科の副読本やドリル、そういう教材費等は学校教育に必要なものだけれど、本来義務教育は無償というのが原則なのだから、公費で負担すべき。そういうことはなかなか知らないと気づかないのかもしれない。でも、中学校の部活でお金がかかるというのは、みんな実感としてわかっているのでは？ 金額的にも多いし。
- うちの学区の中学校のテニス部は夏合宿があって、その費用は2・3万かかるらしい。ラケットも高いし。テニス部に入りたくても、経済的な理由で入れない子どももいる。
- 以前はほとんどの生徒が部活に入っていたけど、半ば強制的に。でも今は帰宅部の子どもも結構多い。それに対して学校もあまり言わなくなった。いろんな理由で部活に入っていない子どもがいる。その中に経済的理由もある。
- 中学校の部活はいろいろ問題ある。学校選択制になって、部活で学校選択をしている子どもが多い。選択制が始まった当初は、小規模校で部活の種類が少ないと人気がなく、ますます部活が少なくなっていくという事態があった。そういう学校の校長先生は生徒を集めるために奔走していたという時期があったが、今は落ち着いてきたようだ。始まった直後は入学してくる生徒数に変動があった。生徒数が減ると配置される先生の数も減って、部活はあっても顧問をする先生がいないという事態になる。保護者がコーチを雇うということをするなど、だんだんおかしくなる。変な方向にドンドン流れてしまう。でも、親の中には部活で子どもをがんばらせたい、お金をかけたいという人もいる。

お金を見ていくと教育のあり方が見えてくる

- 中学校では、ある教科の先生が足りないと専門外の教科を担当させられるという、免許外教科担任という問題がある。臨時免許状を発行して教えられるようにする。英語の先生が美術を教えたり、音楽の先生が技術家庭を教えたり…。
- バランスよく採用していくというのは難しいかもしれないけど、教員採用を計画的にやっていけばある程度解決できるのではないかな。
- 少なくとも最低限の人員を学校に配置することが第一義にされなければならないと思う。教育を何だと考えているのだろうか。
- お金の問題というのは様々なところに絡んでいて、お金を見ていくと教育のあり方が見えてくる。PTAのお金の使い方を見ていくと、そのPTAがどういう活動をしているか見えてくる。
- 今から31年前（1979年）に松P研が作成した資料に、市内小・中学校の卒業対策費が載っています。T中学校では一人当たり13,000円徴収しています。アルバム代や高校説明会などの進路関係費、卒業記念品として学校に印刷機やパイプ椅子などを贈っています。先生方にも図書券を贈っていますね。この当時と現在と状況はあまり変わっていないのではないのでしょうか。
- それから、田辺さんから引き継いだ資料の中に、1969年11月に発行された「これでよいのか教育費の父母負担」という冊子がありました。発行したのは『義務教育費の父母負担をなくす会』（この冊子の序文を次ページに掲載します）
- この頃からの問題なのに、ちっとも進展していない。むしろこの頃より親の負担は増えている。この当時にはなかった部活動の負担。PTAがこの頃以上に、学校教育にお金を出している。
- 学校に一部の親しか出てこない。敷居が高いということもあるし、忙しいということもある。
- 授業参観や懇談会、出席すれば何か実りがあるというものがあれば、仕事を休んでも出てくるかもしれないが。
- 私の仕事仲間の若い人たちにPTAの委員をしている人は結構いますよ。
- 今、義務感で委員をやる人が多いのでは？ 登録制とか、ポイント制とか。子どもが学校にいた間に一度はやらなくてはいけないのかなど。
- そうすると、去年と同じことをやればいいということになる。
- みんな忙しい時間を割いて義務感でやっているから、運営委員会も短時間でパツパツと終わらせるような感じになる。だからもめない。
- 堂々巡りの話をいつまでも延々と続けていると、もう終わらせようよと思ってし



まうけど、延々ともめてもそこから得るものがあるから、あまり効率よくというのはPTAという場には合わない。

はじめに

「おかあさん、お金…」と、学校に持っていくお金を子どもから請求されると、内心、「またか…」と思いつつ、しかし、かわいいわが子の教育のために、高いと思いながらも請求どおりのお金を持たせてやっているというのが実情です。PTA会費から、給食費、様々な教材費や予防注射代、そして、赤い羽根の募金のようなものまで、一回は小額であっても、毎日続くのです。その額は、年間つもればバカになりません。しかし、一体、年間、子どものための教育費にどのくらい支出したのかを知っている親は、案外少ないのです。この小冊子は、そんな毎日の教育費が、つもりつもって、どのくらいかかっているのかという数字や、一方で、国や県や、市の教育予算が、どのくらいの金額なのかということなど、いろいろな角度から、あきらかにしてみました。主に、文部省、教育委員会の資料を使ってみましたので、父母負担の実態数字は、現実より控えめの数字になっていると思われます。しかし、この控えめの数字を見ても、どんなにたくさんの教育費を、親が直接負担しているかは一目瞭然といえましょう。

憲法 26 条は、「義務教育は、これを無償とする」と定めています。教育費を親が負担している現状は、このたてまえに違反しているのです。一体日本のさまざまな法律は、この教育費の問題について、どのような定めをしているのでしょうか。その点にもふれています。

義務教育費の父母負担をやめさせようとする声は、いまや、国民的な世論になろうとしています。日本の各地で、この問題をとりあげて運動がおこっています。教育費の父母負担を禁止する条例制定に成功したところもあります。そのような経験は、わたくしたちの今後の活動に、あかるいみとおしを与えてくれています。ぜひ、この小冊子を、父母負担をやめさせる活動の発展に役立ててくださるよう、期待しています。

義務教育費の父母負担をなくす会

「トイレ飯」という言葉を知っていますか？

- 子どもを学校に通わせている親の負担は相当大きいはず。そういう声を何とか形にしたいと思う。
- 子どものことで悩んでいないということはないと思う。どこで解決しているのだろう。
- 閉塞した場所で、ひとり抱え込んでしまっているのではないか。抱え込むとしんどい。
- 迷惑かけてはいけないと人にも話せない。
- 友だちと言っても、その友だちにも遠慮している。
- 「トイレ飯」という言葉を知っていますか？ 大学生が、一人だと学生食堂に行かれなくて、ひとりトイレで食べるほうが落ち着くからトイレで食事をする。一人でいることを周りで見られるのが恥ずかしい。聖徳大学の先生のお話で聞いたんですが、結構いるようです。それと、学生たちの友だちの作り方で一番安心なのがネットだそうです。まずネットで情報交換して、「この人となら話が合いそうだ」と思って、それから実際に会うんですって。
- 子どもは、いくつかの通る道のひとつとして過ちを犯すこともある。その時、どういうふうに大人が関わるかによって、子どもは成長していく。でも今大人は、子どもに過ちや失敗をさせないようにしているし、子どもも失敗はしたくないし、恐れている。一つ過ちを犯せば排除されてしまうのではないかと恐れている。そういう意味ではとても気を使いながら生きている。
- 子どもを育てていこうという寛容さがない。子どもを育てる環境が一つ一つなくなっている。